

ことになる。そうすれば施主も寿命が長らえ、その功德によつて仏道を証得できるだろう」と教えられました。

阿難尊者はお教えのとおり
に供養すると、数多の食べ物
で多くの亡者を救うことがで
き、施主の寿命ものびたとい
われています。

この説話が、施食会の始まりです。
今日、行われている「施食会」では、施食棚が設けられ、その上に「野菜・果物・水・仏飯・乾物」がお供えられます。それぞれの先祖様はもちろんのこと、帰るところがない仏様までも、どうぞ、召し上がっていただくよう、特別に棚を設置して施しができるようにになっております。緑のある人も縁の無い人も平等に、慈悲の心をもって、食べ物や心でも施すことが功德となり、それを亡くなられた御

父母様やご先祖様の御霊に廻らしもつて、ご供養となるのです。

施食会が終わったあと、施主家の墓前にお塔婆を建立するのは、そういった意味合いがあるのです。私たちの日常においても、分かち合いの心を感じながら、精進していくことが、ご先祖様へのご供養となり、報恩の仏行となるのです。



横浜市貞昌院の大施食会

ご逝去の方々と命日

- ・故 辻村 町子 様
行年 八十八歳
平成二十九年十二月五日没
中家村 施主 辻村 頼栄 様
- ・故 小玉 圭一 様
行年 六十三歳
平成三十年一月一日没
上島 施主 椎野 加代子 様
- ・故 辻村 富美江 様
行年 九十五歳
平成三十年一月六日没
下島 施主 辻村 進 様
- ・故 辻村 輝夫 様
行年 七十八歳
平成三十年二月二十六日没
大井町 施主 辻村 朱美 様
- ・故 小塚 正紀 様
行年 八十六歳
平成三十年一月十五日没
榎本 施主 小塚 亮一 様
- ・故 小松 和子 様
行年 七十一歳
平成三十年二月九日没
中家村 施主 小松 峻 様
- ・故 瀬戸 重治 様
行年 八十八歳
平成三十年二月十六日没
河原町 施主 瀬戸 久江 様
- ・故 辻村 輝夫 様
行年 七十八歳
平成三十年二月二十六日没
大井町 施主 辻村 朱美 様
- ・故 小澤 ふ美子 様
行年 九十九歳
平成三十年三月二十六日没
中家村 施主 小澤 稔 様
- ・故 矢野 博巳 様
行年 七十九歳
平成二十九年十二月二十日没
榎本 施主 矢野 悦子 様
- ・故 辻村 進 様
行年 九十五歳
平成三十年一月六日没
下島 施主 辻村 進 様
- ・故 小澤 ふ美子 様
行年 九十九歳
平成三十年三月二十六日没
中家村 施主 小澤 稔 様



寺報 ともしび

金剛山大長寺
平成三十年四月二十三日発行
第五号



まごころの花

住職 安藤 康哉

春がきたから花が咲いたのでしょうか。花が咲いたから春がきたのでしょうか。花が咲かなければ春は来ません。やさしい美しい花をあなたの心に咲かせましょう。
ところで、私の妻（旧姓・大森美子）は、大長寺で生まれ仏飯を頂き、小田原の潮音寺に嫁ぎましたが、平成二十五年の夏、七十九才でこの世を去りました。病氣療養中、大変、愛情を注いだ花が酔芙蓉でありました。自室の窓からじっと眺めては感慨にふけていました。介護施設から戻って酔芙蓉を見て、妻が詠んだ句であります。

白く咲きて 我を迎うる 酔芙蓉
くれないに染まりて 散り果てるなり

この世の真理をこの花に托して、無常を感じていたのだと思います。
人はみんな各々自分の心に美しい花を咲かせる種（仏性）を持っていきます。この世界を清く明るくい仏の浄土にするには、その種（仏性）があることに気づき、その花を咲かすことです。その花は、上下、優越はなく、世界に一つだけ存在するかけがえのない花となるのです。



仏教講座 東司とうす（トイレ）と修行

院代 安藤嘉則

今日でも永平寺をはじめ修行道場では、多くの雲水が日々精進の生活におかれています。しかしこうした厳しい修行に対して、不満を訴える者はありません。なぜなら数千人、あるいは百人を超える修行僧が、みんなそうしているのですから。つまりそれが当たり前だからなのです。

むしろ大切なことは、修行生活を終えてからも、日々修行を続けることであり、日常のひとつひとつの行いにも、怠りなく精進することではな

いでしようか。

山田霊林先生（駒大学長）は、かつて小僧をしていた正宗寺に、当時永平寺貫首であった森田悟由禅師が来訪されたときのことを次のように回想されています。

『森田禅師が正宗寺へ巡錫されて、四、五日されたそのときであった。そのある夜の夜中に、わたしは小用に廁に走って行った。その廁は禅師が滞在中は寺のものは遠慮することになっていたので、夜中の急でわたしは走って行って



飛び込んだのである。そこに大きな人の体があった。すんでのところでその人を濡らしてしまふところであった。

そのことを翌朝、師匠にいうと、その一部始終を直感した様子で、見る見る恐縮してしまい、早速師匠は袈裟をかけ、線香に火をつけて、つましく捧げて森田禅師のお部

屋にいった。師匠は禅師の前に深く頭を下げて、廁での小僧の粗相を懺悔したのであったことが、何年か過ぎて後にわたしは諒知した。

森田禅師は、その時既に高年齢であった。随行の人も三人かあって、その一人は新井石禅老師（後に總持寺の貫首）であった。新井禅師にもわたしの師匠にも誰にも気づかない真夜中に、森田禅師は廁の掃除をしていられたのである。森田禅師は御自身が老体であることも、貫首という地位にあることも、何もかも全

特別志納者の紹介

老拾万円也	為年回供養	下島	辻村 昌実	老拾万円也	為年回供養	中家村 小澤 俊一
老拾万円也	為 大練忌	下島	辻村 進	老拾万円也	為父親菩提	榎 本 小塚 亮一
老拾万円也	為先祖供養	小田原	松下 裕治	老拾万円也	為年回供養	中家村 脇本 綱男
八万円也	為墓石建立	千葉	平良 英人	三万円也	為年回供養	小田原 井上 清司

く問題にせず、無我無心で、真夜中に廁の掃除をなされていたのである。

廁を清める純行によって、御自身の身を浄め、それを見聞せざる人々の身心を清められていたのである。』

僧堂では、一人で怠けたり、休んだりすることはできません。坐禅中居眠りをしていようものなら、直堂という役目の僧が警策で叩き起こしてくれます。

しかし本当に難しい修行は、人が見ていようと、見てまいと、自分自身を叱咤して、修行に打ち込むことです。

そして森田禅師のように、陰徳を重ねる精進がより大切なのではないのでしょうか。

こうした目に見えぬものに裏打ちされていたからこそ、森田悟由禅師が近代曹洞宗の名僧としてその名を残しているのです。

ちつて すがれた たんぼの、かわらの すきに だアまって、はるの くるまで かくれてる、つよい そのねは めにみえぬ。みえぬけれども あるんだよ、みえぬ ものでも あるんだよ。

（金子みすゞ）

仏教講座のご案内

高度情報化の現代、ときには仏様の話に耳を傾けて夢と潤いを増しませんか。

日曜日午後、毎回テーマを変えて約一時間、院代様

が皆様にお話をされます。

・第八回…五月二十日（日）
・第九回…六月一七日（日）

午後四時から本堂地階で開催されます。



前年度の大長寺施食棚

施食会とは

副住職 安藤 道隆

施食会は、私たちと縁深いご先祖さまはもちろんのこと、祀り手のない仏様、無縁の仏様、全ての精霊に対し、たくさんのお供えをして供養の手をさし述べる法要です。

「施食」とは、亡者に飲食を施すことであり、飢えと乾きに苦しむ亡者を救済するこ

とであります。この起源は、お釈迦様の十大弟子の十番目で、お釈迦様のいとこである阿難（アーナンダ）尊者が、森の中で坐禅しているときに突然現れた亡者とのやりとりです。

二日後、あなたの命はなくなり、私と同じ餓鬼道（仏教でいう六道の一つ）におちるだろう」と餓鬼に告げられた阿難尊者は、お釈迦様に相談されました。

お釈迦様は、阿難尊者に「無量威徳自在光明加持飲食陀羅尼」という陀羅尼（お経のこと）がある。この陀羅尼を唱えながら、ひとつまみの食べ物を施すと、それが無量の食べ物となって、無数の餓鬼に施す